資料１３

日本ジオパーク再認定審査現地審査報告書

ジオパーク名: 三陸ジオパーク
現地審査員: 佃　栄吉，柚洞一央，松原典孝

A.　基本情報

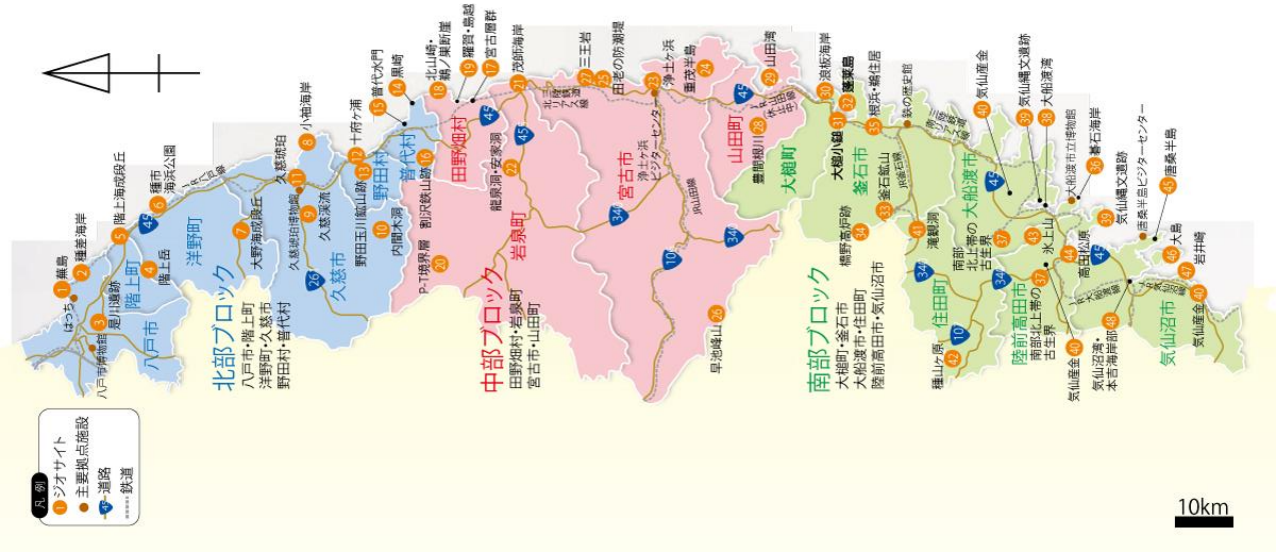
面積	**6009**
人口	**554424**
日本ジオパーク認定年	**2013**
前回の審査日程および審査員名	**2013** 年 **8** 月 **19-21** 日 菊地俊夫、竹之内耕、柴田伊廣
ウェブサイト（**URL** を記載）	**http://sanriku-geo.com/**
ソーシャルメディア（すべて列記）	https://www.facebook.com/Sanriku.Geopark/ https://twitter.com/sanrikugeo48 https://www.youtube.com/channel/UC5EugVYAggPb35o2kWLSmaQ

B.　提出書類一覧

・JGC に提出した書類：現況報告書，添付資料（基本計画，案内看板リスト他）

・審査期間中または審査後に直接審査員に提出した書類（各種パンフレット類，同行者リスト，ほか）

C.　地域の地図



D.　前回の指摘事項に関する取組・改善点

＜ジオストーリーとジオサイト体系の再構築＞

日本列島の成り立ちにリンクさせた三陸全体のジオストーリーを作成したほか，各ジオサイトの全体のジオストーリー中での位置づけを行っている．また，大地と人との関連性を語るジオストーリーの創出を，ガイド研修など住民参加型で実施している．現在までにエリア全体で 9 つのテーマを設け，それに対応した 12 のモデルコースを作成した．

ＪＧＮから示されたジオサイト体系の見直しの方向性に従い，各サイトを「ジオサイト」，「自然サイト」，「文化サイト」に分類し，現在の利活用状況，専門家の意見及びガイド団体などの意向を踏まえ，関係市町村とともに再構築している．

一方で，各地域のジオサイト看板の説明や各地域のガイドの解説などでは，全体ストーリー中での各サイトの位置づけや，同一要素を持つ離れたサイト間の関連性に関する説明など，三陸全体のジオストーリーを各地域から読み取ることができるようにはなっていない．そのため，各地を見学する中でアラカルト的に観光地を巡っているような感覚になり，「三陸」そのものがどのような場所なのか理解するのを困難にしている．

＜ガイドの養成＞

ジオパークガイドの質の確保を図るために，三陸ジオパークガイドの基準を 2016 年度に策定し，23 人が公認ガイドとなった．また，2 年ごとの更新制度を設け，質の向上を図っている．また，他ジオパークからの講師召喚や他ジオパーク視察，ガイド交流会等を実施し，ガイドのスキル向上や 情報共有に努めている．

一方で，各地に質の高いガイドはいるが，三陸ジオパークの全体ストーリーやユネスコジオパークの理念を理解したガイドは少ない．また，各地ガイド同士の交流が不十分であり，自分たちが普段ガイドする場所以外について，状況を十分把握できていないように見受けられる．

＜ジオパーク情報の提供＞

HP の整備や各種パンフレットの作成を推進している．久慈市や田野畑村，三陸鉄道など構成団体のホームページでも三陸ジオパークのホームページにリンクされており，相互に連携して情報発信が図られるようになっている． 拠点施設や道の駅，観光案内所など関連施設では，エリア別のリーフレットの配架や紹介パネルの展示を行っている．解説板については，三陸ジオパークエリアの入口にあたる道の駅や鉄道の主要駅などに総合案内版を設置し，ジオパークのあらましから，三陸ジオパーク全体の概要、地域内のジオサイト周遊ルート，他地域への移動ルートなどを示し，次々と訪れていくことができるように配慮している．

＜運営体制＞

他ジオパークの視察訪問を行い，その成果をもとに，広域のジオパークでの運営体制強化を目的に地域ごとにジオパークの取組を推進する地域推進組織の設置拡大に取り組んだ．

事務局体制については，日本ジオパーク認定時に３名であったジオパーク推進員を，2014 年度に１名（杉本上席ジオパーク推進員）増員し，更に，2016 年度に 1 名増員している．全体の人数も認定時の８人（専任５人、兼任３人）から現在は 19 人（専任７人，兼任 12 人）と大幅な体制拡充を図った．広大な三陸ジオパークにある構成市町村との連絡調整が認定当時よりもやりやすくなっており，多くの項目にわたるジオパークの取組も効率的に分担して取り組めるようになった．

一方で，現在事務局は盛岡にある岩手県庁と宮古市に分かれており，企画運営が盛岡，現場での実質的な活動が宮古と活動が分離しているように見受けられる．そのため，三陸ジオパークエリアを一体的に見据えた活動や，三陸ジオパークが何を目指して活動すべきかが関係者や住民間で共有されていない．

＜保全＞

日本ジオパークネットワーク各地での経験を共有しながら，三陸ならではの鉱産資源の保護と活用，地質標本販売のルールを構築している．久慈市の琥珀資源については，糸魚川ジオパーク，Mine 秋吉台ジオパークの取組を参考としながら，採掘業者，博物館，地域推進組織，市及び三陸ジオパーク推進協議会において保護，活用について話し合いを行っている．久慈琥珀株式会社では琥珀小片を集めて再固化する技術を国内の琥珀会社で初めて開発し，資源の再活用に努めている．現在も，久慈琥珀株式会社，地域推進組織，市及び三陸ジオパーク推進協議会が資源保護の取組検討を行っている．

＜住民参加と地域振興＞

ジオパーク事業の積極的な推進を呼びかけ，三陸全体の盛り上がりを図っている．地域の資源を利用した料理や食品の開発，産物のブランド化が進むよう，農業，漁業，林業関係団体と連携した取り組みを進め，それらを通じた復興支援としての活動につなげる．エリア内では地元の漁師などが船頭を務めるガイドツアーが多く実施されているが，船頭ガイド等と連携した研修会を実施することでガイド内容にジオパークの要素を付け加え，顧客の拡大を図り，漁業関係者などの収入の安定，漁業後継者の確保に寄与している．田野畑村では，飲食店などが地域のサイトをイメージした料理や菓子など「ジオフード」を検討し，商品化していく取組を継続的に行っている．さらに、ジオパーク事業の積極的な推進を呼びかけ三陸全体の盛り上がりを図るため，地元新聞を活用したジオパーク関連の連載を行った．継続的な掲載により，地域住民が身近な地元紙を通じてジオパークを認識する機会創出が図られた．2017 年度は構成市町村ごとの「三陸ジオパーククイズ」を新聞テレビ欄に掲載し，親しみやすい内容でジオパークへの関心を高める取組を続けている．

一方で，三陸ジオパークそのものの運営に住民の意見が反映される体制になっているとは言い難い状況にある．その背景には運営体制の項目で指摘した，企画と実行の分離や理念の共有不足が考えられる．

＜学校教育・生涯教育＞

市町村教育委員会（教員）相手にジオパーク活動を啓蒙普及する研修を実施するなど，ジオパーク活動を学校教育に取り入れる努力をしている．ジオパークを取り入れた授業を各学校の教師が実施しており，現在実施校数は５校まで増えている．岩手県立宮古北高等学校においては，学校行事にジオパークを取り入れ，ジオサイトを巡りながら，その土地の成り立ちや環境について学習するジオパーク遠足を 2016 年度から実施している．

2013 年 11 月に岩手県沿岸 13 市町村の小学生（26 人）を集めたジオクイズ大会の開催，同年 12 月に小学生（36 人）を対象とした授業形式でジオパークの取組を紹介するテレビ特別番組の放映など，小学生や住民向けの情報発信を行っている．ジオパーククイズ大会は翌年も開催したが，これにより市町村イベントなどにおけるジオパーククイズ開催など取組が広がった，

防災学習のハード・ソフトの計画的な整備を実施しており，環境省では宮古市の中の浜キャンプ場を「震災メモリアルパーク　中の浜」として整備し，2014 年度から公開している．田野畑村の明戸防潮堤は 2016 年度に村の公の施設として指定し災害遺構として保存している．これらにはジオパークの解説版を設置している．岩手県教育委員会が発行する中学校用の防災学習副読本「いきる　かかわる　そなえる」に，2016 年３月，三陸ジオパークの章を新たに追加した「ジオパーク版」を作成し，中学１年生に配布，防災学習へのジオパークの活用を促している．

三陸鉄道では列車で移動しながら被災地の今を見て，聞いて，感じる「震災学習列車」の運航を，宮古市田老の「学ぶ防災」などのガイド団体は震災の記憶を伝え，防災の意識を身につけてもらう活動を行っている．

E.　ユネスコ世界ジオパーク運営指針基準の検証

E.1　領域

E.1.1 地形地質遺産および保全

三陸ジオパークは太平洋プレートの沈み込み帯である日本海溝に面し，北上山地の大部分を占める．エリア内には日本列島の骨格をなす約 5 億年前から現在までの地層や岩石が分布する．また，津波など現在の日本列島の動きに伴う諸現象が発生し続けている場所でもある．三陸ジオパークでは，エリア内の地質の成り立ちについて大きく南北 2 つに分けて説明している．南部は主にシルル紀からデボン紀の地層群からなる．これらはゴンドワナ大陸の一部と考えられ，サンゴが生育するような水温の高い大陸縁辺の浅海にあった．北部は主に古生代の基盤にジュラ系が付加されたものである．その後プレートの動きにより南部の地塊

は北上し，1 億数千年前に北部北上山地と衝突した．衝突後はアジア大陸の東縁に位置し，宮古層群や久慈層群などの非海成～浅海成の堆積物が堆積した．火山活動も活発になり，浄土ヶ浜の流紋岩など，随所で火成岩に貫かれた．これら日本列島の形成を記録する地層や岩石，化石などは各所でジオサイトに指定され，ジオツアーなどで利活用されている．日本海の拡大による日本列島形成後，海水準変動や地殻変動，浸食作用などにより，南部はリアス海岸に，北部は海食崖が連続する直線的な海岸線になった．リアス海岸は養殖場や天然の良港などに利用され，人と地球の共生を学ぶことができるジオサイトとして利用されている．また，浸食により生まれた露頭は，地層の成り立ちを学ぶサイトとして教育などに活用されている．差別浸食などにより形成した浄土ヶ浜などの地形は古くから観光利用されており，現在も主要なジオサイトとなっている．

三陸ジオパークの大部分は三陸復興国立公園のエリア内にあり，自然公園法で保護されている．環境省が三陸ジオパークの推進に積極的に関与しており，三陸ジオパークを周遊することができるみちのくトレイルの整備実施やビジターセンター等がジオパークの情報拠点にもなっているなど，国立公園と協力体制にある．龍泉洞など主要ジオサイトは国の天然記念物などに指定され，保護されている．2011 年（平成 23 年）3 月 11 日に発生した東北地方太平洋沖地震に関連した震災遺構が沿岸各地に存在し，そのいくつかは地域の意向も踏まえ保存され，ジオツアーや教育に活用されている．

特に重要な地形地質サイト：

①津波遺産群（世界的価値）

：田老の防潮堤やたろう観光ホテル，津波石や津波記念碑など，津波に関連した遺産群があり，特に東北地方太平洋沖地震関連遺産群は，市町村の条例 などで公の施設に指定保護されている．

②日本列島の骨格をなす地層群

：樋口沢のゴドランド紀化石産地など，日本列島の骨格をなす地層群が各所にみられ，ジオサイトに指定されている．

③アジア大陸の縁辺の非海成～浅海成層 や琥珀

：久慈琥珀や宮古層群，久慈層群などの地層が沿岸部に分布しており，ジオサイトに指定されている．多くは国立公園内にあり保護されているほか，久慈琥珀については採掘業者や博物館，地域推進組織等と協議し，資源の枯渇を防ぐようにしている．

④侵食や海水準変動，地殻変動等で生まれた海食地形やリアス海岸

：北山崎などの海食海岸や山田湾などのリアス海岸の入り江，浄土ヶ浜などの海食地形がジオサイトに指定されている．国立公園内にあり，自然公園法で保護されている．

指摘事項　有

指摘事項：多くのジオサイトが国立公園内にあるか天然記念物等に指定され保護されているが，保護に関する法の指定を受けていない場所も見受けられる．特に，②日本列島の骨格をなす地層群については，保護法令化にない場合が多い．②はそもそもその説明がより専門的になりがちで，従来から観光等に活用されてきていない地質サイトである．分かりやすい解説の作成や，住民への講習実施などによる「見える化」を積極的に行い，価値の住民による理解と行政・住民が一体となった保全を推進する必要がある．

E.1.2 境界線

三陸ジオパークの範囲は南北約 220 ㎞、東西約 80 ㎞、海岸線は約 300 ㎞にも及ぶ．構成市町村は計 16 市で，16 市の範囲がジオパークの範囲となっている．面積は約 6,009 ㎢，域内の人口は 554,424 人（ 2017 年８月１日現在）である．エリアの範囲は全体パンフやサイト看板等に明確に記載されている．

指摘事項　無

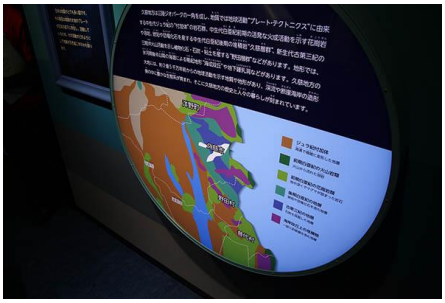
指摘事項：

E.1.3 可視性（ビジビリティ）

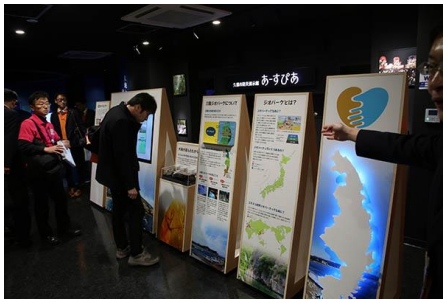
ホームページの整備のほか，SNS による情報発信などを積極的に実施している．田野畑村など構成自治体やエリア内の活動団体，三陸復興国立公園なども自身の web サイトにジオパークの紹介ページを設けるなどして情報発信を行っている．各種チラシやパンフレット類も発行されており，主要サイトには解説看板が設置されている．ジオパークエリアへの入り口には三陸ジオパークへ入ったことがわかる看板が設置してある．エリア内に散在する拠点施設や情報センターにはジオパーク解説コーナーを設け，日本のジオパークや三陸ジオパークに関する解説を行っている．

ジオサイト看板の例．エリア全体図やジオストーリーの説明がある．「宮古ジオパークの見どころ」の記載あり

道の駅の入り口に設置された「三陸ジオパークへようこそ」の看板



情報施設のジオパークコーナーに設けられた地質図



情報施設のジオパークコーナー

指摘事項　有

指摘事項：各地に看板が設置され，視認性は高く評価できる．一方で，「宮古ジオパークの見どころ」という記載など，看板の内容に不備がある場合がある．拠点施設にある展示についても，そこで何を訴えたいか曖昧である．例えば地質図の設置では地質分布の色が凡例で示されていないものもあった．また，地質図を見せることで何を訴えたいのか（ジオストーリー中での当該エリアの位置づけを言いたいのか，地質多様性を言いたいのかなど）が明確でない．各地域の解説看板はその地域に特化しており，一部ではジオストーリー中での位置づけがなされていないものもあった．また，周辺見どころの位置図はあるがそこまでのアクセスについて記載がないものも存在した．その地域に来て，何をどう見せて何が言いたいのかをもう一度総合的に考え直し，住民やガイド，地域の研究者や有識者を交えて再整備することが望まれる．

E.1.4 施設・インフラ整備

広域なエリアを有する三陸ジオパークでは，各地に拠点施設や情報施設を設け，情報発信や観光・学習の拠点化を進めている．特に環境省とは密接に連携しており，各視点場にジオパーク解説看板を設置しているほか，みちのくトレイルを整備し，三陸ジオパークの見どこ

ろをスムーズに周遊できるようにしている．公共の博物館や民間の博物館とも連携関係にあり，各施設にジオパーク展示コーナーを設けたり企画展を実施したりしている．

みちのくトレイルに設置されたジオサイト看板の例．

大船渡市立博物館のジオパークコーナー

指摘事項　有
指摘事項：
　広域ジオパークであるため各地に拠点施設があることは重要である．しかし，可能であれば全情報が集約される施設の整備が望まれる．各施設間の連携が現在は明確ではない．中核施設を各地域の施設やガイド団体などの協力を仰ぎながら整備することで，広域ジオパークにおける情報のネットワーク化が期待できる．
　多くの地域情報を有している各施設の関係者がジオパークの全体的活動に十分参画できていないように見受けられる．地域の各施設関係者がより積極的にジオパーク運営に参画することで，「三陸ジオパーク」という一体的な活動が展開されることが期待できる．
　E.1.3 可視性でも指摘したように，各施設におけるジオパークの解説で何を訴えたいのか明確でないものがある．全体を見渡せるものと地域関係者が一体となり，展示のコンセプトを明確化して欲しい．

E.1.5 情報、教育、研究
　北上山地の成り立ちなど，地球科学的に複雑な地史をうまくジオストーリーに展開し，説明できている．各種パンフレットは地域の人をピックアップするなど親しみやすいものになっている．ジオ鉄マップなど，民間発のマップ類などもあり，様々な方面でジオパークを楽しむことができる．
　学校教育では，教師を対象としたジオパーク学習を行い，複数の学校でジオパーク学習を実施している．岩手県では岩手県教育委員会が発行する中学校用の防災学習副読本にジオパークの章を設け，防災学習においてジオパークの理念を活用している．
　社会教育では，各公民館等と連携した学習会やジオツアーを実施しているほか，岩手県立博物館やエリア内の各博物館，資料館等と連携して活動を推進している．
　研究活動では，2014 年度から岩手大学と連携し「三陸ジオパーク・被災地復興研修」を実施しているほか，岩手県立大学と共同研究を行うなど，研究活動の推進に努めている．また，エリア内を対象とした研究の支援も行っており，日本ジオパーク認定後約 90 件のエリア内を対象とした論文が発表されている．

指摘事項　有
指摘事項：
　複雑な地史を分かりやすいジオストーリーにしているが，まだ改善の余地はあると思われる．観光客の反応などを参考に各学術関係者及び地域住民等が一体となって，より正確かつ分かりやすい解説を追求して欲しい．

三陸ジオパークは文化や歴史，津波（防災・津波観光），景観など，見どころを楽しんだり学んだりする際に様々な切り口がある．ニーズに応じて多様なアウトプットを用意し，観光や学習の幅を持たせて欲しい．

E.2　その他の遺産

E.2.1: 自然遺産

沿岸部には海岸植物群落が発達し，崖地，砂丘，シバ地，塩生湿地など変化に富む海岸線に応じて多様な植物が生育している．また，沿岸部は海鳥の繁殖地として知られ，海域にはアイナメやアワビ，ワカメなど，水産資源としても重要な生物が生息している．これらは国立公園内にあり，適切に保護されている．内陸ではコウモリの生息地として龍泉洞が「岩泉湧窟及びコウモリ」の名義で国の天然記念物に指定されている．久慈渓流における石灰岩とイソギクの関係など地質学的特徴と生物の関係性についての解説も一部である．

指摘事項　無
指摘事項：今後も学術関係者や地元住民と協力し，関係性解明と情報発信を進めることが求められる．

E.2.2 文化遺産

釜石の近代製鉄遺産群や鉄山跡など，地球科学的背景を有した文化遺産群が存在し，ジオサイトと関連付けて説明されている．　これらの一部（釜石の橋野鉄鉱山・高炉跡）は「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」の名義で世界遺産に指定されている．津波記念碑や津波遺構もジオサイトに指定され，保全されるとともに教育や観光に活用されている．

指摘事項　有
指摘事項：
三陸ジオパークにおける文化遺産の多くは地域の地球科学特性に密接に関連していることが多いので，ジオストーリー策定に文化遺産関係者や地元住民を積極的に参画させるなどして，理解を進める必要がある．現状では，文化遺産と地球科学的地域特性の関連性に関して説明が不十分である．津波対策で建築している湾口防波堤の説明に「これはジオではありませんが」と解説するなど，関係者間でもジオパークについて理解が進んでいないことがうかがえる．

E.2.3 無形遺産

リアス海岸となっている南部の湾内では，カキ，ホタテなどの養殖筏やワカメなどの養殖ブイが多数浮かべられ，漁業地域の生業をその風景から学ぶことができる．また，北部では磯見の小型漁船「サッパ船」があり，それを使った観光ツアーを実施することで，漁村の生業と海食地形の特徴を学ぶことができる．伝統行事としては新造船に魂を入れる造船儀礼の儀式，大漁祈願のお守り「山オコゼ」，海上で山の見え方から現在地を知る「山アテ」といった，海や山に関連する風習，秋田のなまはげに似た「スネカ」や民俗芸能の「黒森神楽（国指定重要無形民俗文化財）」などの伝統行事があり，地域住民により継承されている．地域の自然科学的特徴に関連して生じた生業や風習，民俗芸能が数多くありその一部はリアス海岸と漁港・筏養殖や海食地形と磯見漁などの形で説明されている．しかし，それ以外にも多数の無形遺産が存在し，それらの関係性解明は十分ではない．学術関係者や地元住民と協力し，関係性解明と情報発信を進めて欲しい．

指摘事項　有
指摘事項：

無形遺産と地形地質との関連性についての説明が少ない．無形遺産からどのような地形的地質的な特徴が読み取れるのか，情報の整理が必要である．

E.2.4 気候変動および自然災害への関わり

三陸ジオパークは大地の影響を現在も強く受け続けている地域であり，それに関連したサイトが複数存在する．特に津波に関連する遺産群は人類共通の課題「津波」を理解するうえで重要であり，世界的価値のある遺産として保全・活用していくことが求められる．また，東北地方太平洋沖地震からの復興の過程で得られた様々なノウハウもまた，人類共有の財産として非常に重要なものである．住民や関係者の意識が非常に強く，また，近年豪雨災害が発生したことにより水害などにも関心が高い．三陸ジオパークではジオパークを震災復興の柱の一つに据えており，震災の記憶を後世に伝えていくことが基本計画などに明記されている．なお，活動については E10 に述べる．

指摘事項　有

指摘事項：

津波災害は世界共通の大規模自然災害であり，人類が地球と持続的に共生していく際に避けて通れない課題である．三陸ジオパークは現代において最も大きな津波災害を経験した地域として，人類に津波との共生にかかわる知識と経験を発信していかなければならない．

E.3　管理運営

運営は三陸ジオパーク推進協議会を中心に推進されている．三陸ジオパーク推進協議会は，協議会の目的に賛同する国，地方公共団体等を会員としており，国（環境省、国土交通省、農林水産省）の５機関，岩手県及び青森県の７機関，青森県八戸市から岩手県沿岸を経て宮城県気仙沼市に至る 16 市町村，関係団体，大学及び鉄道の９機関，計 37 の会員により構成されている．その運営は，岩手県，青森県及び関係 16 市町村が拠出する負担金により賄われている（約 1200 万円/年）．協議会には会長１名，副会長２名，監事２名を置き，会長に宮古市長が就任している．また，専門部会を置き，学術的な面について大学教員，研究者などの学術アドバイザーから報告助言を得ている．

広いエリアを持続的に運営していくため，市町村等地域単位のジオパーク活動の推進体制（地域協議会）を整備し，三陸ジオパーク推進協議会と地域協議会が連携し，三陸ジオパークの一体的な活動を推進している．また，国や県，市町村，民間団体との連携体制を一層強化し，専門性の確保や，多岐にわたる業務の適切な役割分担を図るなど，広域ジオパークにおける推進体制の新たなモデルの構築を目指している．

三陸ジオパーク推進協議会では基本計画と行動計画を策定し，それに基づいて活動を実施している．前回審査の指摘事項も勘案し，進捗状況を分析している．それらは概ね推進されつつあり，評価できるが，基本計画や行動計画を推進するために必要な，住民や関係者間での基本理念の理解に不十分な点があり， アウトプットに不明瞭な点を産むことにつながっている．

三陸ジオパーク推進協議会事務局は，地域協議会の設立や運営の支援のためのマネジメント力の強化，順次整備が進む三陸沿岸道路など新たな交通インフラを活かしたジオパーク活動の更なる展開等を図るため組織体制強化，復興状況を勘案し，岩手県が引き続き主体的な役割を担いつつ，市町村や，環境省，三陸ＤＭＯセンターなどの関係機関との適切な役割分担のもとで，円滑な運営 に努めていくとしている．事務局スタッフは事務局長１名，事務局参事６名，事務局次長５名，事務局員２名，上席ジオパーク推進員１名，主任ジオパーク推進員１名，ジオパーク推進員３名からなり，認定時の８人（専任５人、兼任３人）から現在は 19 人（専任７人，兼任 12 人）と大幅な体制拡充を図っている．ジオパーク推進員は主に現場における活動を担っている．専門員は常勤ではなく，現在地球科学を専門とする者はいない．事務局には女性スタッフが存在し，一般事務を行っている．また，各地のジオサイトには幅広い年齢層の女性ガイドがおり，積極的に情報発信を行っている．

指摘事項　有

指摘事項：

現在事務局は盛岡にある岩手県庁と宮古市に分かれており，企画運営が盛岡，現場での実質的な活動が宮古と活動が分離しているように見受けられる．そのため，三陸ジオパークエ

リアを一体的に見据えた活動や，三陸ジオパークが何を目指して活動すべきかが関係者や住民間で共有されていない．特に，ユネスコジオパークの理念「人類と地球の持続的共生」や「ボトムアップアプローチの採用」の点において，その理念が十分共有されていないように見受けられる．現場で得られた課題がうまく企画・運営に反映されておらず，また，企画・運営側の意思が現場に届いていない．また，三陸ジオパークそのものの運営に住民の意見が反映される体制になっているとは言い難い．現場事務局の強化などの運営体制見直しや，基本理念の再認識を目的とした勉強会の開催，広域ジオパークにおける各地域住民のつなぎ役になれる人材の設置または住民間の連携強化が可能な体制づくりを行うなどして，三陸ジオパークをより一体的で魅力的なものにしていくことが求められる．

E.4　重複（オーバーラッピング）

重複あり：釜石の橋野鉄鉱山・高炉跡が「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」の名義で世界遺産に指定されている．

（E.2 も参照のこと）

指摘事項　有

指摘事項：

E2 でも述べたように，ジオパークのコンセプトが文化遺産関係者に浸透していないように見受けられる．特に三陸ジオパークにおける文化遺産の多くは地域の地球科学特性に密接に関連していることが多いので，ジオストーリー策定に文化遺産関係者や地元住民を積極的に参画させるなどして，理解を進める必要がある．

E.5　教育活動

(1) ジオパーク授業等の実施

教員向けのジオパーク基礎研修会を開催し，三陸ジオパークの基礎学習や現地学習を行った．また，教育関係者とともに三陸ジオパーク教育普及事業検討会を開催し，学校教育におけるカリキュラム作成を検討，これを踏まえ，市町村ごとのジオサイトや学習のポイント，ジオコラム及びジオなるほどクイズをまとめた副読本「わくわく！さんりくジオＢＯＯＫ」（児童・生徒用、教師用）を作成し，小中学校に配布している．これをきっかけに小中学校におけるジオパーク授業が増え，日本ジオパーク認定時（2013 年度）は１校であったものが，2015 年度には 10 校に拡大し，2016 年度も８校が取り組んでいる．高等学校においては，岩手県立久慈東高等学校及び宮古北高等学校において授業や学校行事に，宮城県立気仙沼高等学校では社会人講座にジオパークを取り入れている．

田野畑小学校によるジオパーク授業

(2) 防災教育

岩手県教育委員会と連携し、同委員会が発行する中学校用の防災学習副読本「いきる　かかわる　そなえる」に，三陸ジオパークの章を新たに追加した「ジオパーク版」を 2016 年

３月に作成し，中学１年に配付，震災学習にジオパークを活用することを促した，また，岩手県立大学，岩手県内陸部の中学校及び三陸ジオパーク推進協議会が共催し，東日本大震災の甚大な被害と教訓を踏まえた防災学習を展開するなどしているほか，外国人研究者、観光客向けに防災教育のためのパンフレットを作成し，配付している．一般のガイド活動の中でも，震災語り部ガイドを通じて，地域住民や観光客への防災学習を実施している．

（3）社会教育

構成市町村や市町村教育委員会，地域推進組織などにおいて，社会教育や生涯教育の一環として「ジオパーク研修会・学習会・見学会」などを開催したほか，三陸ジオパーク検定を実施し，三陸ジオパークを通じた地域の理解促進及びジオパーク活動普及を行った．2016 年度に第１回として初級編の検定を開催し 46 人が合格している．

以上のように，三陸ジオパークでは多面的に教育活動を展開している．今後も継続して活動を推進し，より多くの学校や社会教育の現場でジオパークの理念に基づいた教育を推進できるように努力して欲しい．

E.6　ジオツーリズム

（1）モニターツアー等の実施

地元の旅行会社などとともにジオサイトを巡るモニターツアーを実施し，ジオツアーの商品化の検討などを行っている．また，環境省で整備を進めている「みちのく潮風トレイル」コースとジオサイトを巡るツアーを，環境省自然保護官事務所や市町村と連携して実施している．ＪＲ東日本が主催する「駅からハイキング」においては，八戸市及び気仙沼市のサイト等 を巡るコースを設定するなど，ジオパークを活用したツアーコースづくりを民間団体等と連携して行っている。

（2）ガイドによるツアー

三陸ジオパーク内の各ガイド団体において，地域のジオサイト等を巡るモデルコースを設定し，随時，ジオツアーを開催している．その際，ジオパークを案内するガイドの確保及び資質向上を図るため，構成市町村及び三陸ジオパーク推進協議会によって，各種の研修会・学習会などを行っている。

構成市町村では，これからガイドになろうとする方の掘り起こしや地域のジオサイトの理解を促す基礎的研修会，現地見学会などのほか，他地域の先進的な取組を視察し現地ガイドとの交流を行ってスキルアップにつなげる取組を行っている．

三陸ジオパーク推進協議会では，主に広域にわたるもの，専門的なもの，特定の分野を担うものなどについて研修会等を実施している．広域ガイド研修会では，三陸地域全体の地形・地質についての座学や演習，モデルコースづくりのワークショップを開催した．また，観光船やサッパ船等を対象とした船頭ガイド養成研修会を開催した．さらに，三陸ジオパークに関する共通情報，ガイドスキル，リスクマネジメント等を盛り込んだマニュアルを作成したほか，三陸の大地と海の成り立ち，魅力，恵みを紹介するコンテンツ動画（３か国の言語対応）を制作した．なお，ジオパークガイドの高い資質を保持するため，高い知識・関心を持ち積極的に活動する「認定ガイド」の制度を 2016 年度に設けている．現在までに認定ガイド講習会を計 10 回開催し，2017 年３月には講習会受講者による第１回三陸ジオパーク認定ガイド試験を実施，23 人が合格している．

情報施設のジオパークコーナーに設置された認定ガイドの紹介パネル

E.7.1 持続可能な開発に関する方針

三陸ジオパークでは，「豊かな資源とくらしを再生し，未来を創る」を基本方針（サブテーマ）の一つとしており，国立公園や鉄道会社，地域の産業関係者がジオパーク活動を通じて，地域の持続的発展へつなげる取組を推進している．

（1）「みちのく潮風トレイル」を活用したジオパーク活動

三陸復興国立公園における復興の要として登場した「みちのく潮風トレイル」は，青森県八戸市から福島県相馬市までの太平洋沿岸をつなぐ トレイルであり，地域の自然環境や地域のくらし，震災の痕跡，利用者と地域の人々など，様々なものを「結ぶ道」として設定された．このトレイル沿いには，三陸ジオパークのサイトが多くあり，みちのく潮風トレイルのイベントの際には、ジオパークの案内ブースを設けるとともに，イベント時以外もジオガイドがコース沿いのサイトを案内している．

（2）サッパ船を活用したジオツアーの取組

エリア内では地元の漁師などが船頭を務めるガイドツアーが多く実施されているが，船頭ガイド等と連携した研修会を実施することでガイド内容にジオパークの要素を付け加え，顧客の拡大を図り，漁業関係者などの収入の安定，漁業後継者の確保に寄与している．これらの取組により、ジオパークの周知、普及と顧客拡大が図られるとともに、漁業関係者などの収入の安定、漁業後継者の確保に寄与している。

（3）ジオパークを活用した新たな商品開発「ジオフード」

従来から三陸ジオパークを盛り上げようと４店舗で「ジオカレー」の提供が行われてきた田野畑村において，2017 年度，定食や菓子などを提供する店舗が新たに加わり，あらためて「たのはたジオフード」と銘打って７店舗での提供が始まった．ジオフードは「村内にある断崖や地層などをイメージして，ジオパークの恵みの食材を使って提供する料理」と定義している．企画段階では三陸ジオパーク推進協議会も参画し，よりよい味や親しみやすい形を求めて意見交換を行った．

（4） 三陸鉄道やＪＲと連携した「駅－１グルメ」

三陸地域独自の食材を使った現地でしか味わえない料理などを，三陸の鉄道駅ごとのおすすめグルメを紹介するフリーペーパー「さんりく・駅－1（エキイチ）グルメ」を，三陸鉄道や JR 東日本盛岡支社などと連携して発行している．地域を走る鉄道の旅を通じて，ジオパークの見どころを楽しみながら，食も満喫してもらうことによって，鉄道の利用促進とともに地域の活力増進につながっている．

（5）道の駅と連携したジオ巡り

道の駅の利用者拡大を狙いとして，道の駅をベースキャンプとしたジオサイト巡りを，道の駅，三陸鉄道，環境省，市立博物館，ジオパークの関係者が連携し取り組んでいる．これにより，道の駅の利用者・来訪者の増加と道の駅に併設されている産直販売の拡大等が共に図られるなど地域活性化が期待できる．

指摘事項　無
指摘事項：
たのはたジオフードなどの取り組みをエリア全域に広げ，科学的根拠づけなどにより三陸ジオパークとして地場産品の付加価値化を推進して欲しい．また，地区ごとでは難しいプロモーションについては，広域連合であることを生かし，様々な団体の強みを生かしながら推進することが求められる．

E.7.2 パートナーシップ

各市町やそれに関連する団体，鉄道会社，国や県の機関等は協議会の会員になるという形で推進協議会の構成員になっている．

指摘事項　有
指摘事項：
各民間団体等とより密接に連携し，組織的にブランド化やプロモーションを推進していく必要がある．その際，文書等による契約を正式に交わすことが望ましい．

E.7.3 地元コミュニティや先住民族の全面的かつ効果的な参加

市町村等地域単位のジオパーク活動の推進体制（地域協議会）を構築し，地域コミュニティが運営に関与できるようにしている．

指摘事項　有
指摘事項：
地域協議会を設けるなど広域エリアにおいて各地域が積極的に参画できる体制づくりを進めているが，現状では三陸ジオパークそのものの運営に住民の意見が反映される体制になっているとは言い難い状況にある．特に，地域で活躍するガイドや地域の博物館・資料館関係者，地域の観光団体等の意見が反映される運営体制づくりが求められる．

E.8　ネットワーク活動

（1）世界ジオパークネットワークへの貢献
ＡＰＧＮが主催する国際会議に参加し，三陸ジオパークの特徴や取組を紹介した．また、2015 年度には，国連教育科学文化機関（ユネスコ）のパトリック・マッキ―バー地球科学部長を召喚し，津波の教訓を生かしてのジオパーク活動の在り方について意見交換を行った．
（2）日本ジオパークネットワークへの貢献
ＪＧＮが主催する全国大会及び研修会などにも積極的に参加している．参加に際しては，ジオパーク推進員や各市町村担当者，ジオガイドなど，現場でジオパーク活動に携わる者等が積極的に参加するよう努めている．
2014 年度にはＪＧＮ全国研修会を宮古市で，2015 年度には第４回東北ジオパークフォーラムを久慈市で開催した．
（3）他のジオパークとの交流
ジオパーク間の交流活動についても積極的に推進し，2018 年６月に予定される宮古－室蘭間のフェリーの就航にちなんだ洞爺湖有珠山ジオパークとの交流や，ジオパークを目指す地域などへの取組事例の紹介及び視察受け入れなどを実施している．また，研究部門の交流として，伊豆半島ジオパーク学術研究支援事業による継続的な自然災害の共同研究に取り組んでいる．

指摘事項　有
指摘事項：
世界で最も津波に対する知識と経験を有している地域として，世界へ情報を発信して欲しい．

E.9　地質鉱物資源の販売

久慈琥珀では，現在も地場産業として琥珀の採掘と販売を行っている．資源の保全と有効な活用のため，琥珀を販売する久慈琥珀株式会社，地域推進組織，市及び三陸ジオパーク推進協議会が資源保護の取組検討を行っている．久慈琥珀株式会社では琥珀小片を集めて再固化する技術を国内の琥珀会社で初めて開発し，資源の再活用に努めている．琥珀の販売に際しても，原料を大量に流通させることはせず，加工して製品化してから流通させることで，付加価値の向上と資源の乱掘を防ぐ努力をしている．

指摘事項　有
指摘事項：
琥珀資源の保全と活用については継続して関係者間で協議していくことが求められる．

E.10 防災・安全対策、防災教育、災害対応

（1）ジオサイト見学時等の自然災害への対応や安全対策

ジオサイトの見学などの際にも自然災害が発生することを想定し，ツアー時の避難誘導の仕方をガイド研修会に導入し，災害発生時に適切に対応できるようにしている．また，市町村においても，見学ルートの安全管理や緊急時の避難路等の 確保を併せて実施している．

（2）防災教育

岩手県教育委員会と連携し，同委員会が発行する中学校用の防災学習副読本「いきる　かかわる　そなえる」に，三陸ジオパークの章を新たに追加した「ジオパーク版」を 2016 年３月に作成し，中学１年に配付した．三陸ジオパークが震災を後世に伝える活動を行っていることを紹介するなど，震災学習にジオパークを活用することを促し た．

また，2015 年度，岩手県立大学，岩手県内陸部の中学校及び三陸ジオパーク推進協議会が共催し，東日本大震災の甚大な被害と教訓を三陸沿岸の現地で学ぶ「学ぶ防災」の受講や避難体験，ワークショップなど防災学習活動を行った．さらに，市町村と市町村教育員会が主催する防災フォーラムにジオパーク推進員を派遣，三陸の津波被害や住居移転の歴史の紹介，1991 年長崎県雲仙普賢岳噴火災害からのジオパーク活動について講演を行った．

なお，2014 年度に，外国人研究者，観光客向けに防災教育のためのパンフレットを作成し，配付した．

このほか，三陸各地では，震災語り部ガイドが行われており震災遺構となっているサイトでもガイド活動が行われているが，体験談だけでなく防災教育としての説明にも力を入れている．

（3）国内の他ジオパーク地域での自然災害発生時の対応

2016 年４月に発生した熊本地震の際、三陸ジオパークの推進員が現地調査を行い，ＪＧＮを通じて被災状況を発信するとともに，甚大な被害が出た阿蘇ユネスコジオパークに義捐金を贈った，また．同年 12 月の糸魚川大火の際は，ＪＧＮを通じてお知らせのあった被災状況を構成市町村と共有し，糸魚川ユネスコジオパークを訪問したことのある有志により糸魚川市に義捐金を贈った．

（4）自地域での自然災害発生時の対応

2016 年 8 月，東北地方太平洋側に上陸した台風 10 号により，宮古市，久慈市及び岩泉町を中心に多くの被害が発生した．三陸ジオパークでは発災直後からジオサイトを含めた台風被災地の被害状況調査を行い，ＪＧＮを通じて全国へ情報発信を行った．特に被害の大きかった岩泉町については，甚大な被災状況とともに，龍泉洞ジオサイトや安家洞ジオサイトについて詳細な状況を逐次発信した．なお，三陸ジオパークでは，岩泉町などと相談のうえ，応援イベントやスタンプラリーなどを実施し，2017 年３月 19 日の龍泉洞再開後の復興を後押しした．

指摘事項　無
指摘事項：
　先にも述べたが，津波災害は世界共通の大規模自然災害であり，三陸ジオパークは現代において最も大きな津波災害を経験した地域として，人類に津波との共生にかかわる知識と経験を発信していくことを期待する．

F.　総括

　三陸ジオパークは日本列島の骨格となる地質体からアジア大陸縁辺にあった時代，そして現在に至るまで継続して地球活動の影響を受け続けている地域である．特に 2011 年（平成 23 年）3 月 11 日に発生した東北地方太平洋沖地震は世界に衝撃を与え，そこから現在も続く復興を通じて，活動する地球と人類の共生にかかわる様々なノウハウが生み出されている．三陸ジオパークはその基本計画に地震からの復興を掲げ，三陸地域の地球科学的特徴を生かしたガイド活動や教育活動などを着実に推進しつつある．公認ガイドも誕生し，事務局体制も強化された．一方で，現在の推進協議会は広域にわたるジオパーク各地の住民やガイド，関係団体との理念の共有が十分でないように見受けられる．各地域のガイド団体はエリア内別地域の活動を知る機会があまりなく，また，運営の方針について情報が十分に提供されていない．看板づくりなどについても各地域がそれぞれ理念を模索しながら独自に作成しており，そのため三陸ジオパーク全体として何が伝えていのかが十分伝わらない状態になっている．事務局体制も盛岡と宮古で分かれ，両者が迅速に情報共有できていないため，活動にばらつきがあるように見えてしまっている．恐らく，ジオパークで何をすべきなのかが関係者間で十分理解・共有されていないため，各見どころを紹介するアラカルト的状態になっているものと思われる．もう一度関係者や住民が集まり，ジオパークや三陸ジオパークの理念を再認識するとともに，住民や各関係者の意見が運営に反映できる組織作りを進めていただきたい．

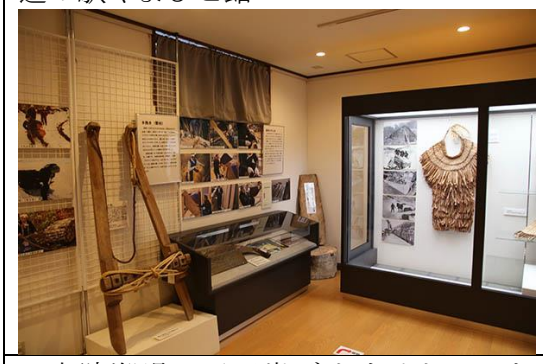
G.　指摘事項

・提案：イエローカード
・主な指摘事項
１，現在事務局は盛岡にある岩手県庁と宮古市に分かれており，企画運営が盛岡，現場での実質的な活動が宮古と活動が分離しているように見受けられる．そのため，三陸ジオパークエリアを一体的に見据えた活動や，三陸ジオパークが何を目指して活動すべきかが関係者や住民間で共有されていない．特に，ユネスコジオパークの理念「人類と地球の持続的共生」や「ボトムアップアプローチの採用」の点において，その理念が十分共有されていないように見受けられる．現場で得られた課題がうまく企画・運営に反映されておらず，また，企画・運営側の意思が現場に届いていない．また，三陸ジオパークそのものの運営に住民の意見が反映される体制になっているとは言い難い．メインブレインとなる人材の配置とその人物を中心としたジオパークチームの強化，現場事務局の強化などの運営体制見直しや，基本理念の再認識を目的とした勉強会の開催，広域ジオパークにおける各地域住民のつなぎ役になれる人材の設置または住民間の連携強化が可能な体制づくりを行うなどして，三陸ジオパークをより一体的で魅力的なものにしていくことが求められる．　加えて，専門員の専門性が現状では十分生かされていない．各人の専門性を生かし，地域資源の発掘や地球科学的特性との関連性解明，ジオストーリー中での位置づけ，住民への理解の促進等を担ってもらう必要がある．また，地質学・地形学の知見を大学の研究者に頼ることなく住民にわかりやすく伝えられる専門員が必要である．
２，各地域のジオサイト看板の説明や各地域のガイドの解説などでは，全体ストーリー中での各サイトの位置づけや，同一要素を持つ離れたサイト間の関連性に関する説明など，三陸全体のジオストーリーを各地域から読み取ることができるようにはなっていない．そのため，各地を見学する中でアラカルト的に観光地を巡っているような感覚になり，「三陸」そのも

のがどのような場所なのか理解するのを困難にしている．全体を概観できる人や関係する全地域代表者，地域の学術関係者，住民等交えて再整備することが望まれる．
３，各地に看板が設置され，高く評価できる一方で，「宮古ジオパークの見どころ」という記載など，看板の内容に不備がある場合がある．拠点施設にある展示についても，そこで何を訴えたいか曖昧である．例えば地質図の設置では地質分布の色が凡例で示されていないものもあった．また，地質図を見せることで何を訴えたいのか（ジオストーリー中での当該エリアの位置づけを言いたいのか，地質多様性を言いたいのかなど）が明確でない．また，周辺見どころの位置図はあるがそこまでのアクセスについて記載がないものも存在した．その地域に来て，何をどう見せて何が言いたいのかをもう一度総合的に考え直し，住民やガイド，地域の研究者や有識者を交えて再整備することが望まれる．
４，各地に質の高いガイドはいるが，三陸ジオパークの全体ストーリーやユネスコジオパークの理念を理解したガイドは少ない．また，各地ガイド同士の交流が不十分であり，自分たちが普段ガイドする場所以外について，状況を十分把握できていないように見受けられる．ガイド同士が情報をやり取りできるネットワークの構築が求められる．
５，多くのジオサイトが国立公園内にあるか天然記念物等に指定され保護されているが，保護に関する法の指定を受けていない場所も見受けられる．特に，②日本列島の骨格をなす地層群については，保護法令化にない場合が多い．②はそもそもその説明がより専門的になりがちで，従来から観光等に活用されてきていない地質サイトである．分かりやすい解説の作成や，住民への講習実施などによる「見える化」を積極的に行い，価値の住民による理解と行政・住民が一体となった保全を推進する必要がある．
６，津波災害は世界共通の大規模自然災害であり，人類が地球と持続的に共生していく際に避けて通れない課題である．三陸ジオパークは現代において最も大きな津波災害を経験した地域として，人類に津波との共生にかかわる知識と経験を発信していかなければならない．
７，　広域ジオパークであるため各地に拠点施設があることは重要である．しかし，可能であれば全情報が集約される施設の整備が望まれる．各施設間の連携が現在は明確ではない．中核施設を各地域の施設やガイド団体などの協力を仰ぎながら整備することで，広域ジオパークにおける情報のネットワーク化が期待できる．

H.　行程表

現地審査視察内容・場所	主な対応者	気づいたこと／コメント
１日目(年月日)		
事前説明・意見交換 	三陸ジオパーク推進協議会　事務局スタッフ， 三陸ジオパーク学術アドバイザー，岩手県知事	説明内容：前回指摘事項への対応，平成31年度が節目となる復興とそれに向けた取り組みなど 審査員などからの主なコメント：プロデューサー，メインブレインが今は見えない．キーパーソンを据えて，プロのチームのような形はやっていかなければいけない． 三陸ジオパークとしての説明というより，岩手県としての説明という側面を強く感じた．

道の駅やまびこ館 	事務局スタッフ	主なコメント：ジオパークの拠点施設にはなっていないが，郷土資料があるほか体験学習にも使え面白い．関連施設にしてはどうか？ ジオサイト看板に「宮古ジオパーク」の記載あり． 施設横にあるチャートの露頭について，人が来る場所なのだから説明看板を付けたらどうか．
田老防潮堤、三王岩ジオサイト、旧たろう観光ホテル 	宮古観光文化交流協会学ぶ防災ガイド　小幡実　ほか	主な説明：繰り返された津波と対策，東北地方太平洋沖地震の際の田老の様子，ガイド体制など 主なコメント：5億年の地球の物語というジオストーリー中での位置づけをここでも言えるようにしてほしい． 地殻変動を伝える手段として，水準点が移動したことを伝える展示は面白い．
中部ブロック関係者ヒアリング，会長副会長市町村長ヒアリング，交流会 	各市町担当者，三陸鉄道，環境省，各市町長	主な説明：何にすがって復興したらよいか悩んでいたところ三陸ジオパークの集まりができて，目標が定まった．もともとばらばらだったのがジオパークで一つになった．復興には温度差があり，それが課題． 主なコメント：三陸ジオパークで何を伝えたいかを共有してほしい．様々な人や資源を繋ぐことが大切．看板も作ればよいという感じになっていないか？みんなでこうしていこうよというビジョンが見えない． 資源は豊富．世界を目指して欲しい．しかし，現状の運営体制では難しい．
2 日目 (年月日)		
田野畑小学校によるジオパーク授業	田野畑村副村長　熊谷　牧夫 ＮＰＯ法人体験村・たのはたネッ	主な説明： 　地層の成因や化石のことを，水の働きなどから教えている．成り立ちがわからない状態から観察させ，粒子の様子や化石などを観察し，スケッチや写真撮

	トワーク上村　浩司 田野畑村立田野畑小学校　教諭滝川　加奈子 三陸ジオパーク推進協議会事務局 ほか	影をさせる．後日それらを使ってまとめる．地元ガイドなどにゲストティーチャーとして来てもらうこともある． 　ＮＰＯ法人体験村・たのはたネットワークは，観光で雇用をというコンセプトで立ち上げた．ほか，活動全般の説明． 主なコメント：中高校とのつながりは？→ある，滝川中学校でも継続してジオパーク学習を実施している
久慈琥珀博物館 	久慈琥珀株式会社　代表取締役社長　新田久男 北三陸大地の恵み・ジオパーク推進連絡会会長　梶田民夫、事務局長　黒沼忠雄、事務局次長　島川　芳樹 ほか	主な説明： 　東京のアクセサリー会社が岩手県と久慈市の誘致により琥珀博物館を運営している．久慈琥珀を採掘し加工して販売．資源が枯渇しないよう原料の無加工販売はせず，学術研究にも協力している． 　地元住民で「くんのこほっぱ愛好会」を立ち上げ，久慈琥珀の歴史などを調査研究している． 主なコメント： ・ここで何を伝えたいのか？ →かつての歴史や文化を地域の人も知らない，それを伝えたい．加工技術を伝承したい． ・保全の理念については文書にして示したほうが良い．
もぐらんぴあ 	久慈市　産業経済部長山田　一徳 久慈市観光交流課　主査　谷崎雄二 もぐらんぴあ　館長宇部　修 三陸ジオパーク推進協	主な説明：石油備蓄トンネルの一部を展示施設にした．ジオパーク解説室を設けてある． 主なコメント： ・地質図で何を示したいのか不明瞭．地質図の色に凡例に無いものがある． ・この展示で三陸ジオパークの何を訴えたいのか伝わってこない．

	議会事務局ほか	
北部ブロック関係者ヒアリング 	市町村、青森県、地域協議会、自然保護官事務所、認定ガイド関係者ほか	主な説明： ・国立公園はジオパークになって深みが増した. ・ただの観光ガイドにならないように心掛けている. ・ジオパークになって元気なガイドさんが地域にいること認識した. ・地域の人が取り組んできたものが価値あるものだと認識されたことがジオパークになった良いこと. ・エリアが広く，他地域のガイドとの情報共有ができていない. ・できればジオパークの運営に参画したい 主なコメント： 情報共有，合意形成が必要.このメンバーでも良いので月に一度集まってみては？
龍泉洞 	久慈市　産業経済部長山田　一徳 久慈市観光交流課　主査　谷崎雄二 もぐらんぴあ　館長宇部　修 三陸ジオパーク推進協議会事務局ほか	主な説明： ・洞内の解説，ガイド活動の様子など ・興味のあるお客さんにしかジオのガイドはしない. 主なコメント： ・地質の難しい話ではなくて，なぜこの洞窟ができたのかなどは説明して欲しい．面白くわかりやすく説明すればよいこと.
中部ブロック認定ガイドヒアリング 	三陸ジオパーク認定ガイド　三陸ジオパーク推進協議会事務局，岩手県立博物館，三陸ジオパーク推進協議会事務局ほか	主な説明： ・従来はただの観光ガイドだったが，認定をきっかけにジオパークのガイドになった．年間10回の研修会や勉強会を開催して勉強している（龍泉洞ガイド）. ・たのはた体験村を立ち上げ，震災語り部とネイチャーガイド，ジオガイドを行っている.事務局スタッフの5人はよそか

		ら入ってきた人が多い．ガイドは地域の人．サップ船を 6 隻契約し，漁師さんが船頭になりガイドをしている（たのはた体験村）． 主なコメント： ・専門的な情報はどこから得ている？ →研究者と町が立ち上げた日本洞窟学研究所が岩泉にあり，研究者が頻繁にやってくる．彼らから情報を得ている． ・ジオパークは地球科学をベースにしなければいけない．どうやったら万人に伝えられるか？ →時間に余裕があるときは伝えている． ・天然記念物だからすごいではなくて天然記念物になったのは何故かを伝えるべき． ・サップ船のガイドツアーは良い．他地域との交流を．
3 日目 (年月日)		
鉄の歴史館 	釜石市　産業振興部長似内　敏行 釜石市　世界遺産室長佐々木　育男	主な説明： ・釜石の鉄の歴史の説明，管内説明，ガイド活動説明，釜石湾港防波堤の説明他 ・平成 4 年にアンモナイトの露頭レプリカを設置．ギ・マルティニ氏にも来ていただいている． 主なコメント：なぜこの地で製鉄産業が盛んになったのか，地域性の説明が不足しており分かり辛い．鉄鉱石の話など，地球科学的地域特性と絡めた展示が必要．だから釜石はすごいんだという地域の優位性が見えてこない． ・港湾防波堤もジオパークの重要な要素．絡めて解説して欲しい． ・アンモナイトの展示はジオパーク交流になる．もっとアピールすべきである．
碁石海岸	碁石海岸インフォメーションセン	主な説明：環境省のビジターセンターや市立博物館があり，ジオパークの情報拠点となってい

	ター　中野貴之	る．国立公園としてもジオパークと連携して活動． 主なコメント： ・なぜ岩の形がこのようになったのかの解説が欲しい． ・久慈琥珀があった地層と同じ時代のものでありながら，こちらは久慈よりも深い海．ここだけの説明をするのではなく，全体の中で位置づけ，例えば久慈地域との違いなども説明したほうが三陸ジオパーク全域を把握しやすくなる．
大船渡市立博物館 	大船渡市立博物館　係長（学芸員）　白土豊	主な説明：7つある拠点施設の1つ．地域の地質や自然・文化を中心に展示解説している．ジオパークコーナーを設けており，大型連休の際にはジオパーク企画展も実施した．将来的には津波とジオパークの常設展示を作る予定である． 主なコメント： ジオパークエリア内で研究解説する学芸員は重要．看板づくりやジオパークの運営にも参画するようにしてほしい．
南部ブロック関係者ヒアリング 	市町村、地域協議会、認定ガイド、大船渡市立博物館、自然保護官事務所、道の駅さんりく	主な説明： ・地域での活動紹介ほか． ・震災後震災ガイドが増えた． ・ジオパークをきっかけに広域にわたる解説をしたと考えた．しかし，地域間の連携はまだ． 主なコメント： ・この地域は津波被災と復興の経験をシェアすべきと世界から期待されているが，現状では運営体制に課題がある． ・遊びなどを通して，エリア内の様々な人がつながってほしい ・学芸員など，レジデント型研究者が住民と専門家，住民同士などをつなぐ接着剤になってほしい．